

1 たただはま  
多々戸浜

本誌9ページ参照

450mの美しいビーチとして、サーフィンなどのマリンスポーツをする人々の間では特に有名です。近くには公園もあり、遊ばれた際にはベンチに腰掛けたり、公園の先のちょっとした展望台では、コバルトブルーの海と白い砂浜の織りなす美しい景観を堪能することができます。



上写真 多々戸浜近くの公園。  
下写真 多々戸浜全景。

2 なべたはま  
鍋田浜

本誌9ページ参照

鍋田浜は下田の市街地から最も近い海水浴場として知られ、古くから住民や観光客にとって馴染みのある浜です。波が少なく安全な海水浴場として知られる他、岩場では磯遊びもできます。遠浅で水質が良いため一面にエメラルドグリーンの海が広がり、それを取り囲む白い砂浜と荒らしい岩場が見事な景観を作り出しています。

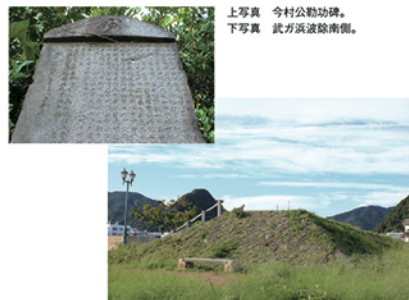


上写真 白い砂浜とボート。  
下写真 鍋田浜全景。

3 たけがはまなみよけといまむらこうろうっひ  
武方浜波除と今村公勤功碑

本誌10ページ参照

大波の被害を度々受けていた下田の町民を守るため、第2代下田奉行今村伝四郎正長は正保2年(1645)、私財を費やして武方浜波除を建設しました。今村公勤功碑は、その功績をたたえ、同年に名主3名が建立した記念碑です。しかし、現在も残る武方浜波除は、安政元年(1854)の津波によって全壊した後、翌年に再建されたものです。



上写真 今村公勤功碑。  
下写真 武方浜波除南側。

4 しもだぎょうきんめだい  
下田漁港金目鯛

本誌10ページ参照

下田漁港の金目鯛は、水揚げ量日本一です。水深200m~800mに棲む金目鯛の特徴である真っ赤な色は、海中では背中の部分だけが赤くて全体的には銀色です。水揚げされた金目鯛は市場に並べられます。金目鯛の真っ赤な色が床一面に広がる様子は、下田らしい景観を醸し出しています。



上写真 漁港での作業風景。  
下写真 水揚げされた金目鯛。

5 しもだぎし  
下田節

下田節は下田の郷土民謡で約400年前からあると言われていいます。港町の情緒ある唄で、酒の席で歌われていましたが、節回しが大変難しく、下田の人でも歌える人が少なくなっています。歌詞の「伊豆の下田に長居はおよし 續の財布が軽くなる」は、風待ち港として栄えた下田の様子を表すと共に、財布を空にはさせない(全ては使わせない)下田の人の人情を感じられませんか。



上写真 踊りの練習をする下田芸者衆。  
下写真 澤村邸2階の練習場。

6 ひらのや  
平野屋

本誌10ページ参照

欠乏所の敷地内にあったとされる平野屋は、江戸時代以降、旅館、民家と姿を変え、現在は飲食店になっています。店内に入って上を見上げて目に入る鶏の飾りは、下田太鼓祭りで使用されていたもので、松崎町出身の入江長八の作だと言われています。その他にも魅力的なアンティークが飾られ、まるで時間を詰めたんだような下田まち遺産です。



上写真 店内太鼓台に載る鶏の飾り。  
下写真 平野屋北側全景。

6 つちとうしょうてん  
土蔵商店

土蔵商店は、明治20年(1887)創業の酒屋で、伊豆石・漆喰で建造されています。店内に飾られているのは、酒蔵より贈られた重厚な看板や明治・大正時代の帳簿である大福帳等で、昔の商家の面影を現代に伝えています。土蔵商店・土蔵ギャラリーは、ご年輩の方には懐かしさを、子供達には昔の商家の雰囲気を感じさせる下田まち遺産です。



上写真 土蔵ギャラリー内部の古看板。  
下写真 土蔵商店の入口。

9 かだいでい  
加田邸

本誌10ページ参照

下田内に架かるみなと橋のたもとにある加田邸は、なまこ壁や漆喰、石材から構成され、大正12年(1923)年に建てられたと伝えられています。みなと橋の拡幅工事に伴い、平成16年に5mほど曳家(建物をそのままの状態を移動させること)をしたおかげで、今もその姿を私たちに見せ続けてくれています。



上写真 赤色が入った伊豆石は珍しい。  
下写真 加田邸西側全景。